

## 数学解法コンテスト 第16回

### 問題 A

平面上に、点  $O$  を中心とする単位円  $C$  があり、その内部に点  $G$  がある。点  $P$  が次の条件をみたして動くとき、点  $P$  の通過領域を求めよ。

条件：円  $C$  の内部に含まれる三角形で、点  $G$  を重心とし、点  $P$  を頂点とするものが存在する。

### 問題 B

集合  $T = \left\{ \frac{n(n+1)}{2} \mid n = 1, 2, 3, \dots \right\}$  に対して、その部分集合  $A$  を

$$A = \{a \mid a_i \in T \ (i = 1, 2) \text{ かつ } a = a_1 + a_2 \in T\}$$

で定める。このとき、次の条件をみたす無限集合  $A_i$  ( $i = 1, 2, 3, \dots, 8$ ) が存在することを示せ。

$$A_i \cap A_j = \emptyset \ (1 \leq i < j \leq 8) \text{ かつ } A = A_1 \cup A_2 \cup A_3 \cup \dots \cup A_8$$

問題 A

P を平面上の点とする. P が特に問題文の条件をみたす動点のとき, P の通過領域を  $D$  とする. まず, 次の条件  $(\alpha)$ ,  $(\beta)$  が同値であることを示す.

( $\alpha$ )  $P \in D$

( $\beta$ ) P は  $C$  の内部にある G と異なる点であり, 次の式で定まる点 M も  $C$  の内部にある.

$$\overrightarrow{OM} = \frac{3\overrightarrow{OG} - \overrightarrow{OP}}{2}$$

( $\alpha$ )  $\Rightarrow$  ( $\beta$ ): 条件を満たす三角形の 3 頂点を P, Q, R とする. G はこの三角形の重心であるから  $P \neq G$  である. また, P, Q, R は  $C$  の内部にあり,

$$\overrightarrow{OM} = \frac{(\overrightarrow{OP} + \overrightarrow{OQ} + \overrightarrow{OR}) - \overrightarrow{OP}}{2} = \frac{\overrightarrow{OQ} + \overrightarrow{OR}}{2}$$

が成り立つ. したがって, M は線分 QR の中点であり,  $C$  の内部にある. (( $\beta$ ) 成立)

( $\beta$ )  $\Rightarrow$  ( $\alpha$ ):

$$\overrightarrow{PM} = \overrightarrow{OM} - \overrightarrow{OP} = \frac{3(\overrightarrow{OG} - \overrightarrow{OP})}{2} = \frac{3}{2}\overrightarrow{PG} \neq \vec{0}$$

が成り立つから  $P \neq M$  であり, G は線分 PM を 2:1 に内分する点である.

次に, M を通る  $C$  の弦 AB を

$$AB \perp PM, MA \leq MB$$

を満たすようにとり, 異なる 2 点 Q, R を

$$\overrightarrow{MQ} = \frac{1}{2}\overrightarrow{MA}, \overrightarrow{MR} = -\frac{1}{2}\overrightarrow{MA}$$

で定める. Q, R は  $C$  の内部にあり, M は線分 QR の中点である.

したがって, P, Q, R は  $C$  の内部に含まれる三角形の 3 頂点であり,

G はこの三角形の重心である. (( $\alpha$ ) 成立)

( $\alpha$ ), ( $\beta$ ) は同値であるから

$P \in D \iff P$  は  $C$  の内部にある G と異なる点であり,  $|\overrightarrow{OP} - 3\overrightarrow{OG}| < 2$  を満たす.

よって, 点  $O'$  を  $\overrightarrow{OO'} = 3\overrightarrow{OG}$  で定め,  $O'$  を中心とする半径 2 の円を  $C'$  とすると

$$D = \{P \mid P \in (C \text{ の内部}) \cap (C' \text{ の内部}) \text{ かつ } P \neq G\}$$

ここで,  $C$  と  $C'$  が異なる 2 点で交わるための条件は

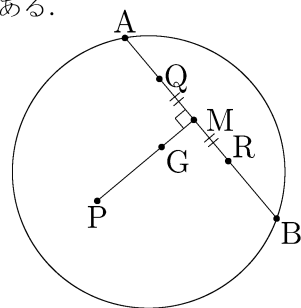
$$2 - 1 < OO' = 3OG < 2 + 1 \quad \text{すなわち} \quad \frac{1}{3} < OG < 1$$

G の定め方から  $0 \leq OG < 1$  であり,  $0 \leq OG \leq \frac{1}{3}$  のときは  $(C \text{ の内部}) \subset (C' \text{ の内部})$  となることに注意する.

以上により, 求める通過領域は

$$\begin{cases} 0 \leq OG \leq \frac{1}{3} \text{ のとき} & C \text{ の内部 (ただし, 点 G は除く)} \\ \frac{1}{3} < OG < 1 \text{ のとき} & C \text{ の内部と } C' \text{ の内部の共通部分 (ただし, 点 G は除く)} \end{cases}$$

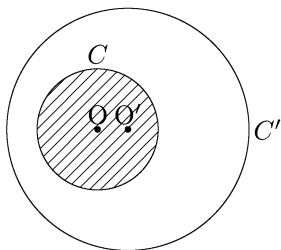
( $C'$  は線分 OG を 3:2 に外分する点を中心とする半径 2 の円)



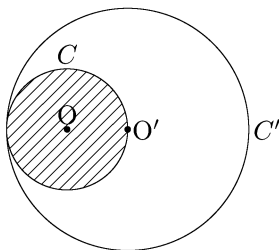
(注釈1)

$D$ を図示すると、次の図の斜線部分(境界を除く)となる.

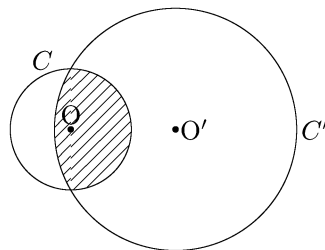
$$0 \leq OG < \frac{1}{3}$$



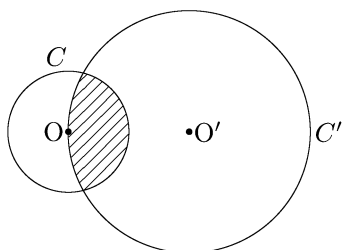
$$OG = \frac{1}{3}$$



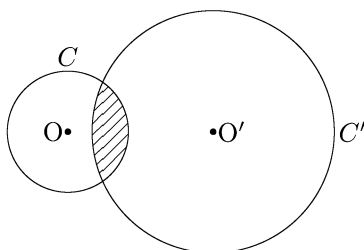
$$\frac{1}{3} < OG < \frac{2}{3}$$



$$OG = \frac{2}{3}$$



$$\frac{2}{3} < OG < 1$$



(注釈2)

ベクトルの代わりに複素数平面を用いる解法も考えられる.

問題 B

自然数全体の集合を  $\mathbb{N}$  とし,  $n$  の関数  $f(n)$  を

$$f(n) = \frac{n(n+1)}{2} \quad (n \in \mathbb{N})$$

で定める.  $f(n)$  ( $n \in \mathbb{N}$ ) は単調増加関数であり,  $f(1) = 1$ ,

$$f(n) = \sum_{k=1}^n k \in \mathbb{N} \quad (n \in \mathbb{N})$$

$$A \subset T \subset \mathbb{N}$$

となることに注意する. また,  $n = 2, 3, 4, \dots$  に対し,

$$f(n) - f(n-1) = n$$

$$f(f(n)) = f(f(n)-1) + f(n)$$

$$f(f(n)) \in A$$

となるから,  $A$  は無限集合である.

次に,  $A$  の要素を小さい順に  $a_1, a_2, a_3, \dots$  とし,  $A$  の部分集合  $A_i$  ( $i = 1, 2, 3, \dots, 8$ ) を

$$A_i = \{a_{8k+i} \mid k = 0, 1, 2, \dots\}$$

で定める.  $A_i$  ( $i = 1, 2, 3, \dots, 8$ ) は明らかに無限集合であり

$$A_i \cap A_j = \emptyset \quad (1 \leq i < j \leq 8)$$

$$A = A_1 \cup A_2 \cup A_3 \cup \dots \cup A_8$$

(注釈 1)

$A$  が無限集合であることは,

$$f(f(n)-1) + f(n) = f(f(n)) \in A \quad (n \in \mathbb{N} \text{ かつ } n > 1)$$

の代わりに, 次のような式を用いても示せる.

$$(\alpha) : f(3n) + f(4n+1) = f(5n+1) \in A \quad (n \in \mathbb{N})$$

$$(\beta) : f(8n+1) + f(16n^2+6n-1) = f(16n^2+6n+1) \in A \quad (n \in \mathbb{N})$$

(注釈 2)

以下, 8 を法として考える.

$$A_i = \{a \mid a \in A \text{ かつ } a \equiv i\} \quad (i = 0, 1, 2, \dots, 7), \quad A_8 = A_0$$

とおくと, この  $A_i$  ( $i = 1, 2, 3, \dots, 8$ ) も条件を満たす. これを示すには,  $A_i$  ( $i = 0, 1, 2, \dots, 7$ ) が無限集合であることを示せばよい. 示し方は色々ある.

< 1 つの示し方 >

$i = 0, 1, 2, \dots, 7$  に対し, 単調増加関数  $f_i(n)$  ( $n \in \mathbb{N}$ ) を

$$f_i(n) = f(16(8n+i)^2 + 6(8n+i) + 1) \quad ((\text{注釈 1}) \text{ の } (\beta) \text{ 参照})$$

で定めると

$$2i^2 + i + 1 \equiv f_i(n) \in A \quad (n \in \mathbb{N})$$

であり,

$$f_5(n) \in A_0, \quad f_0(n) \in A_1, \quad f_7(n) \in A_2, \quad f_2(n) \in A_3, \quad f_1(n) \in A_4$$

$$f_4(n) \in A_5, \quad f_3(n) \in A_6, \quad f_6(n) \in A_7 \quad (n \in \mathbb{N})$$

よって,  $A_i$  ( $i = 0, 1, 2, \dots, 7$ ) は無限集合である.